

## 教育長室からのお知らせ NO. 69(令和3年4月)

教育長 田中 庸寛



春和の候、今年は例年になく、早足で桜の季節が過ぎていきました。

はじめに、令和3年度の表題ですが、昨年度同様の「『万里一空』と『堅忍不拔』の思いを胸に」を座右の銘とし、市川の教育行政に努めていきたいと思っております。それは、現在コロナ禍にあって、子どもにとって、より良い教育を『万里一空』のとおり、目的や目標、やるべきことを見失わず励み、頑張り続けることであり、子どもの「学び」と「成長」にとって、必要なこと、大事なこと、大切なことについては、『堅忍不拔』の精神をもって、意志強く、辛いことでもじっと耐え忍んで、心迷いなくしっかりと取り組んでいくという、私の強い思いからです。今年度も、更なる市川教育の充実・発展にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年度の学校教育活動について、4点お話しさせていただきます。

1 点目、令和3年度は中学校の新学習指導要領の全面実施となり、これで幼小中と出揃ったことになります。幼小は、一歩進んで充実期としての取組となります。中学校では知識・思考力・人間性の向上がキーとなり、すでに持っている知識を組み合わせる力を育み、勉強だけではなく、生きていく中で知識や技能を活かせるようになる教育をすすめていきます。

2 点目、GIGA スクール構想の中で、デジタルかアナログかといった二項対立の発想を脱し、学習内容や子どもの発達段階などに応じて、適切に組み合わせ生かすハイブリッド教育により、個別最適な学びと協働的な学びを実現していかなければなりません。

3 点目、働き方改革の視点から、小学校にあっては教科担任制の導入等、中学校にあっては、学年の枠を超えて教科部会の情報を共有すること等により、学校がチームとしての結束力を今まで以上に高めることを目指していきます。

4 点目、コロナ禍にあって、児童生徒同士および教職員とのコミュニケーションの不足を補うために、より望ましい人間関係を構築し、互いに信頼し合える関係を強化することが大切です。教職員が、子どものちょっとした変化に早めに気づき、子どもの抱える問題を小さなうちに解決することが、子どもの安心感となり、質の良いコミュニケーションにつなげていくことができます。令和3年度においても、学校は安全安心な学びの場であることが最も重要です。学校が、保護者の皆様や地域の皆様と積極的に関わり、信頼感・安心感を高めることが、子どもの豊かな成長につながります。三者で子どもの学びと育ちを見守り喜べること、学校を核とした地域づくりを推進していきます。

これからの子どもたちは、変化の激しい予測困難な社会を自立して生きてゆくことが求められています。子どもたちの学びに向かう好奇心に火をつけるきっかけづくりや支援を、教育活動全般において積極的に取り入れていきたいと思っております。

コロナ禍となった2020年は、自殺した小中高生が過去最多の479人にのぼり、前年比140人増と急増しました。特に、長期休暇明けなどに多い傾向にあり、夏休み明けは前年同月の2倍超と突出しています。社会情勢の変化に伴い、今後も子どもたちの心が不安定になることが見込まれることから、各園・学校では、生徒指導体制、特に教育相談部門の充実と強化をより推進し、子どもたちの抱える悩みや困難の早期発見に努めるため、さまざまな相談事業を周知しつつ、スクールカウンセラー等のより有効な活用を進めていきます。

結びとなりましたが、教育委員会といたしましては、引き続き各学校・園を全力でサポートしてまいりますので、1年間どうぞよろしくお願いいたします。